

# 第3回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会 ～指摘事項と対応～

平成29年3月1日

## ■第2回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会での指摘事項（1/2）

### 「資料1-2： H26～H27年モニタリング調査結果の概要」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥類の確認種リストに示された確認地点について、新規確認種の確認箇所がわかるようにした方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング調査結果の鳥類確認種リストは距離標毎に示した。</li> </ul>	—
<ul style="list-style-type: none"> <li>ウツセミカジカと記載、整理されているが、この種名で採用するかは相談したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川水辺の国勢調査マニュアルの更新に伴い、カジカ中卵型として表記を変更した。</li> </ul>	—
<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は堰下流に瀬があり産卵していた。現在は、潮が入ってあまり期待できないが、一部では瀬の環境が残っているため、産卵の可能性はある。</li> <li>砂が溜まらないよう中央に水を集めて瀬をつくり産卵場として整備するのも良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も神戸堰下での産卵場確認踏査を実施している。</li> <li>本モニタリングで基礎データを収集し、今後、河川管理者として対応できる範囲で、可能なものについては検討したい。</li> </ul>	【資料-2】 P76
<ul style="list-style-type: none"> <li>NW1とAW4の水深が、1年間でかなり浅くなっており、特にNW1でその傾向が強い。このため、地形の変化等を、詳細に追いかけていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水深毎の面積変化を詳細に把握できるようにした。</li> </ul>	【資料-2】 P9
<ul style="list-style-type: none"> <li>AW8のように将来的に抽水植物が広がるようなワンドを目指すのか、あるいは水深を確保したワンドを目指すのか、<u>将来像に配慮しながらモニタリング結果で得られた知見を活かすことが望まれる。</u></li> <li>目的を明確にしながらワンドを創出するほうが良いと思うが、少なくとも大型の水鳥類をイメージすると、今のワンドではスケールが小さいので、今後、ワンドの大型化や多様な環境の創出が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、本モニタリングで基礎データを収集し、今後の環境整備に関する取り組みに活かすように考えている。</li> </ul>	—

## ■第2回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会での指摘事項 (2/2)

### 「資料3：開削部下流調査結果」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>放水路下流部の藻類調査は1回だけの調査になるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放水路下流部はSt.8として加え、藻類調査を実施した。</li> </ul>	【資料-2】 P68、88
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルーギルの再生産が放水路下流部で行われている可能性のほか、どこかからか流入してきていることも考えられる。今後、注意しておいてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H28調査では、ブルーギルの産卵床調査を春と夏に実施した。</li> <li>H27に引き続いて、H28についても11月下旬の水抜き時の調査を実施した。</li> </ul>	【資料-2】 P42、89
<ul style="list-style-type: none"> <li>放水路下流ではどの水草が優占しているのか。</li> <li>水草が繁茂すると魚の生息場所としてはよいが、オオカナダモが優占した場合、その場所を発生源とし、分布が広がる可能性もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放水路下流部ではH27ではオオカナダモ、コカナダモ、H28ではコカナダモが優占している。</li> <li>H29の植生図調査時に、水草の分布を記録する。</li> </ul>	【資料-2】 P68、88
<ul style="list-style-type: none"> <li>pHが10を超えており、光合成が原因であるとは考えるが、異常に高い値となっている。現地調査の際の測定器の精度も含めて今後留意してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>pH計については、指定機関により検定を受けた機器を使用しています。また、事前（毎月の調査前）に校正し、現地測定しています。</li> </ul>	【資料-2】 P38

### 「資料4：神戸堰倒伏に伴う現地調査結果」についての指摘事項

協議・質問内容	回答・対応	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸堰の倒伏については来年度以降も実施するのか。15cm下げても湛水域への影響は、あまり変わらないので時々倒伏する方が良さそうに思える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出雲市からの要請があり、H28年は、10月中旬から12月中旬まで、連続して倒伏した。</li> </ul>	—
<ul style="list-style-type: none"> <li>堰の倒伏について仔アユの降下調査結果を見ると、倒伏前のほうが多くて倒伏後のほうが少ないと読み取れ、堰の倒伏効果が見えない。感覚的には倒伏直後のほうが、流下仔魚は増えるのではないかと。どういう想定で実施したのかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸堰の倒伏は10時頃に行ったが、仔アユ降下調査は18時から実施しているため、効果が見られなかった可能性も考えられる。</li> <li>倒伏直後に堰下流河川への立ち入りは、安全管理上難しい。</li> <li>今後も神戸堰倒伏のデータ収集に努める。</li> </ul>	—

## ■第2回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会以降の指摘事項

### ■神戸川漁協からの依頼事項

依頼内容	回答・対応	対応資料
斐伊川放水路モニタリングで実施している産卵場調査について、仔アユへの影響を考え、中止していただきたい。	踏査圧の高い詳細調査については産卵期での調査を中止し、踏査圧の低い現地踏査については、十分配慮した形で実施する事で了解を得た。	—

### ■その他

課題	回答・対応	対応資料
シジミはパッチ状に分散しているため、サンプル数として足りない可能性がある。	サンプル箇所を既存の3地点から7地点に変更した。	【資料-2】 P72
付着藻類調査については、過年度の志津見ダムモニタリングで、夏季に調査が実施されているため、整合をとる必要がある。	経年比較を可能とするよう、調査時期を秋から夏に変更した。	【資料-2】 P82

# モニタリング調査計画の変更

神戸川の現状や委員指摘・漁協要請を受け、担当委員に相談し、今年度の調査計画を修正した。第2回斐伊川放水路環境モニタリング協議会後に変更した箇所を赤字で示す。

# ■3巡目（平成28年1月～12月）調査項目

調査項目		調査範囲・地点	調査時期	調査回数		
保全対策効果の検証	重要な植物調査 (タコノアシ、ミクリ、ミズアオイ)	過年度調査で確認された区域	秋(開花・結実期)	1回		
	フンド調査	物理環境	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	秋～冬	1回	
		植生図作成	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	秋～冬	1回	
		魚類	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		底生動物	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		植物	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		鳥類	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	(春渡り期)・ 繁殖期・越冬期	3回	
河川環境の変化の把握(全般)	河川環境基図	群落組成調査	調査範囲全域	秋～冬	1回	
		植生断面模式図	調査範囲内で7断面	秋～冬	1回	
		河川調査(河川形態調査)等	調査範囲全域	秋～冬	1回	
	河床構成材料調査	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7	秋～冬	1回		
	水質	定期水質	新崎屋橋、妙見橋、馬木大橋	通年	12回	
		放水路下流湛水部	馬木、湛水区域上流、半分大橋、 古志大橋、神戸堰上流、開削部下流	通年	7回	
	魚類※1	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7、St8	春・夏・秋	3回		
	底生動物	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7、St8	夏・冬	2回		
	植物	St1、St2、St3、St4、St5	春・秋	2回		
	鳥類	神戸川:L12+R12=24地点	(春渡り期)・繁殖期・ 秋渡り期・越冬期	4回		
	両生類・爬虫類・哺乳類	St1、St2、St3、St4、St5	春・夏・秋	3回		
	陸上昆虫類	St1、St2、St3、St4、St5	春・夏・秋	3回		
	沈水植物	St8	夏	1回		
	河川環境の変化の把握(代表種)	シジミ調査	定量調査 新崎屋橋上下流の4測線で各3→7地点	春・秋	2回	
アユ調査		遡上調査	神戸堰兩岸	春～初夏	10回	
		産卵場調査	踏査	神戸堰下流部、放水路合流点より上流の瀬	秋	4回
			詳細調査→ 物理環境調査	馬木新大橋上流のアユ産卵床整備箇所、 区間調査で主要と思われた地点	秋→冬(アユ産卵後)※2	1回
		仔アユ降下調査	神戸堰上下流	秋	2回	
		付着藻類調査	馬木吊り橋付近	秋→夏	1回	

※1 春季・夏季調査でブルーギル産卵場調査を追加実施。

※2 産卵場における産卵実態の把握は、仔アユ降下調査結果から行う。